

第1章 釧路市の概要

1 概要

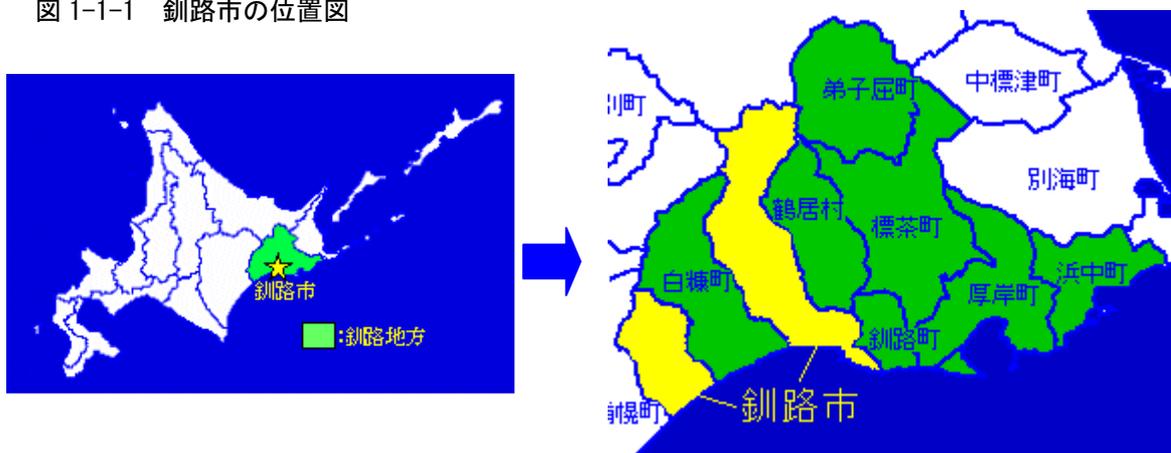
平成17年10月11日に旧釧路市、阿寒郡阿寒町、白糠郡音別町が合併し、新しい釧路市が誕生しました。

釧路市は、北海道の東部、東経144度22分24秒、北緯42度58分10秒に位置し、行政区域の総面積は1,362.75km²となっています（平成20年10月1日国土交通省国土地理院公表）。

阿寒、釧路湿原の2つの国立公園をはじめ、海、山、湿原、湖沼、河川など多彩で雄大な自然に恵まれています。

また、日本有数の漁業基地や酪農業、林業と石炭鉱業、製紙工業、観光業を基幹に、さらに商業などを含めた産業が港湾機能に支えられながら発展し、東北海道の中核拠点都市となっています。

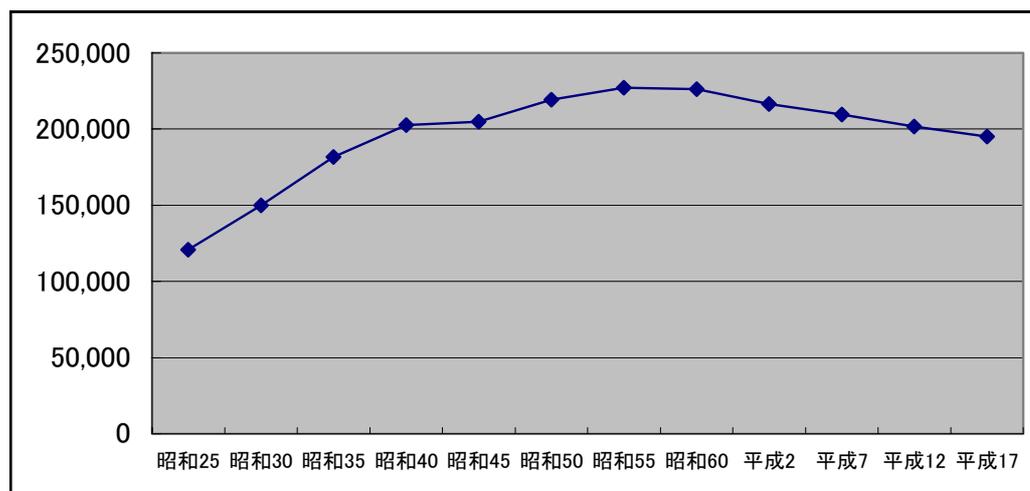
図 1-1-1 釧路市の位置図



2 人口

平成21年3月31日現在の住民基本台帳による釧路市の人口は、187,569人となっています。

図1-2-1 国勢調査による人口の推移 (各年10月1日現在)



※ 人口は、合併前の旧釧路市、旧阿寒町、旧音別町の人口を合算したものの。

3 気象

気候は、寒流の影響を受け、一般に冷涼です。冬期間の寒さは厳しい反面、積雪は概して多くありません。5月から8月にかけては、海霧が発生しやすく、日照時間が少なくなることから、夏季における最高気温は20℃前後と冷涼な気候となります。9月から10月にかけては晴天が続く、11月以降の冬期間は快晴が多く、乾燥した日が続きます。年間の日照時間は、2,000時間弱で、冬季に日照率が高くなっています。

降水量は、年間1,000mm前後で、全道平均1,200mmに比べて少なく、降雪は、11月下旬から4月上旬にかけて見られ、降雪の深さの合計は過去5年間の平均が105cmで、道内他都市と比べて極めて少なくなっています。

特に内陸に位置する阿寒地区では、冷涼地といわれる釧路市の中で比較的恵まれています。年間を通して寒暖の差が大きく、平均降水量は1100mm強となっています。冬期間の最深積雪量は中徹別で65cm前後、阿寒湖畔で130cm前後となっています。

風向は、夏には南、秋から冬には北北東の季節風が多くなっています。

表1-3-1 気象データ（釧路地区の平成16年から平成20年の5年間のデータ）

年月次	気温(℃)			降水量(mm)	雪(cm)		日照率(%)	霧発生日数
	平均	最高	最低		降雪の深さの合計	最深積雪		
平成16年	7.1	28.1	-16.0	819.5	126	32	46	92
平成17年	6.5	28.3	-17.4	934.0	147	38	45	92
平成18年	6.7	28.6	-18.5	1252.5	154	33	45	90
平成19年	6.7	30.0	-15.6	1127.0	82	30	46	90
平成20年	6.7	29.2	-19.4	838.0	25	12	43	108
1月	-6.4	1.6	-19.4	8.0	9	12	76	0
2月	-4.7	3.9	-16.7	9.0		1	69	0
3月	0.7	8.8	-7.2	56.0			46	8
4月	4.3	17.8	-5.7	53.5			40	15
5月	8.1	20.0	-0.5	103.0	-	-	35	11
6月	11.6	22.4	5.8	75.5	-	-	30	18
7月	16.0	25.4	7.7	91.0	-	-	24	21
8月	17.7	29.2	10.8	176.0	-	-	22	7
9月	17.1	27.6	4.1	115.0	-	-	47	13
10月	11.6	18.8	-2.1	83.5	-	-	51	9
11月	4.0	14.7	-8.9	34.5	-	-	59	4
12月	0.7	11.8	-12.1	33.0	16	8	50	2

※ 釧路地方気象台による。

表1-3-2 気象データ（阿寒地区の平成16年から平成20年の5年間の平均値）

場所	気温(℃)			降水量(mm)	雪(cm)	日照時間(h)
	平均	最高	最低		最深積雪	
阿寒				1,166		
中徹別	5.7	33.0	-23.3	1,118	65	1,693
阿寒湖畔	4.4	31.2	-25.5	1,124	132	1,511

※ 釧路地方気象台による。

4 土地利用状況

釧路市の土地の利用状況を都市計画法に基づく用途地域についてみると、住居系が3,157ha(59.9%)と大半を占めており、以下、商業系307ha(5.8%)、工業系1,812ha(34.3%)の合計5,276haが用途地域に指定されています。

また、都心部を中心に防火地域48ha、準防火地域648haが指定され、工業地域及び準工業地域などに特別工業地区383haが指定されています。

このほか農業振興地域は35,430ha(うち農用地区域14,102ha)、保安林14,082ha、地域森林計画対象民有林45,451haが指定されています。

表1-4-1 都市計画区域用途地域面積

(平成20年5月30日現在)

用途地域	面積(ha)
都市計画区域	22,175
市街化区域	5,276
第1種低層住居専用地域	974
第2種低層住居専用地域	7
第1種中高層住居専用地域	881
第2種中高層住居専用地域	604
第1種住居地域	492
第2種住居地域	72
準住居地域	127
近隣商業地域	199
商業地域	108
準工業地域	361
工業地域	759
工業専用地域	692
市街化調整区域	16,899

表1-4-2 地目別面積

(平成20年1月1日現在)

	面積(ha)
総数	136,275
宅地	2,841
商業地	95
工業地	509
住宅地	1,950
その他	287
農地	8,429
山林	22,598
原野	4,332
牧場	3,911
雑種地	1,388
その他	92,776

※ 最下欄の「その他」は、非課税地及び免税点未満の土地の合計を表す。

5 産業

釧路市は、重要港湾を有し、水産業、石炭鉱業、製紙業の三大基幹産業のほか商業などの産業が集積しています。

第一次産業では、水産業が国際漁業規制の強化や主力水産資源の減少という現実直面し、かつて100万tあった水揚げ量が平成8年には17万t台にまで激減しました。その後、徐々に回復し、平成11年には21万tまでになりましたが、平成20年は12.6万tになっています。

第二次産業では、石炭鉱業は平成11年度まで210万t前後の出炭量を維持してきました。平成14年1月に太平洋炭砦が閉山して、その事業を引き継いだ釧路コールマイン(株)が平成14年4月から本格的な出炭を開始しました。平成20年度の出炭量は53.6万tとなっています。

製造業は、パルプ・紙・紙加工品製造業が中心であり、平成19年工業統計調査では、製造品出荷額等2,768億円のうち40.1%を占めています。

第三次産業では、小売業の年間販売額が平成19年商業統計調査で1,872億円となっています。

観光についてみると、観光客入り込み数は近年350~400万人前後で推移しており、平成20年度は352万人になっています。

平成17年国勢調査の結果(旧釧路市・阿寒町・音別町の合算)によると、就業者数は85,542人で、産業別構成は、第一次産業2.5%、第二次産業20.4%、第三次産業77%、分類不能の産業0.1%となっています。